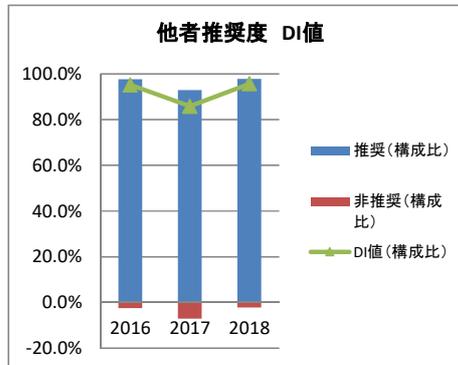
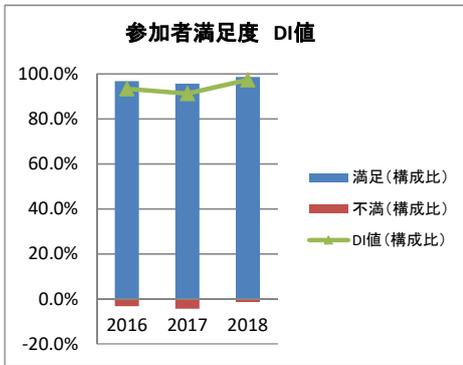


インターンシップ事業

<事業概要>

就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」、「高い職業意識の育成」、「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラム(コオプ教育)として、1998年度より全国に先駆けて実施しています。実務経験型(10日以上の実習)の「ビジネス・パブリックコース」と、課題解決型(約5か月間の実習)の「長期プロジェクトコース」の2つのコースを展開しています。各大学の教員がコーディネーターとして関わっています。



参加者満足度

	2016	2017	2018
満足(名)	354	305	219
不満(名)	12	14	3
満足(構成比)	96.7%	95.6%	98.6%
不満(構成比)	-3.3%	-4.4%	-1.4%
DI値(構成比)	93.4%	91.2%	97.3%
参加者数(名)	398	346	257

他者推奨度

	2016	2017	2018
推奨(名)	321	236	181
非推奨(名)	8	18	4
推奨(構成比)	97.6%	92.9%	97.8%
非推奨(構成比)	-2.4%	-7.1%	-2.2%
DI値(構成比)	95.1%	85.8%	95.7%
参加者数(名)	398	346	257

<参加者の声>

- 働く現場をみることで、視野が広がったと思いました。
- 初めてのインターンシップで不安が大きかったが、研修等で手厚くサポートしていただいたのが良かった。
- 他大学の生徒とのゼミを通して自分の改善すべき点を発見できた。
- 体験交流会がよかった。またコーディネーターが様々なレポートのヒントなどをくださり、書きやすかった。
- 10日間という比較的長期間のプログラムであり、密度の濃いものであった。
- 社会人として働くことの大変さを理解できた。
- 業界だけでなく、リスクやマナーに関する知識も得ることができた。
- 事前、事後学習会、レポート学習を振り返る機会が多かった。

<参加者の声を受けて改善を図った点>

- レポート提出は窓口を持参することにしており、窓口時間外の受付やWebでの提出を求める意見が出されている。時間外の受付については、学生の事情に配慮し柔軟に対応している。Webでの提出については、それぞれのメリット・デメリットを踏まえ適切な方法を検討している。
- より実践的なコミュニケーショントレーニング(主に礼儀作法や連絡伝達等のマナー講座)を望む意見について、事後アンケートの分析結果をもとにコーディネーターと総括したうえで、委託業者と連携して講座内容の見直しに努めている。
- 受入先の対応に差があることを指摘する意見について、受入先には本インターンシップは教育プログラムであり、例えば、日々の実習後に学生の振返りを促すことなど受入先が担うことをガイドブックに明記し説明している。

※DI (Diffusion Index)値とは

「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加(プラス)／減少(マイナス)、サーベイデータ(アンケートなど)であれば回答を良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>